

会議名	第 11 回人と動物の関係に関する国際会議 IAHAIO 2007Tokyo プレイベント 「2007 年の東京大会に向けて～人と動物の関係：現在のトレンド」
開催日時	平成 18 年 10 月 16 日（月）13：00～17：30
開催場所	京王プラザホテル 5F コンコード C （東京都新宿区西新宿 2-2-1）
主催者	IAHAIO 2007 東京大会実行委員会
参加人数(概数)	約 250 名、(記者発表；70 名)
1. 会議の概要 (資料添付)	<p>IAHAIO(アイアハイオ。人と動物に関する国際組織)は発足後 18 年間にわたり、人と動物の関係に関する国際会議として、3 年ごとに世界各地で開催され、毎回日本からの参加者も多く、関心も高い。'07 年 10 月アジアでは初めて東京で開催される。大会の実行委員会は IAHAIO の会員である日本の会員団体より構成され、畜産技術協会も後援団体となっている。下記のプレイベントに出席して収集した情報の中から畜産業に関連する情報を報告する。</p> <p>講演：「過去 18 年の IAHAIO 大会と当時のトレンド～人類の動物観からアニマル・セラピーまで」講師；山崎 恵子 (JSDRA)・太田 光明 (麻布大)、司会；森 祐司 (東京大)。</p> <p>不定期開催から定期的開催に変わった以降の大会に新しく登場したテーマによりトレンドを紹介。</p> <p><u>1989 年 (モナコ)</u> ；・安楽死させる職業のストレス、・死、・動物の死 ・動物介在療法 (ATT、乗馬療法)、・介護犬・盲導犬、 ・日本のペット事情、・家畜行動学 (作業犬)</p> <p><u>1992 年 (モントリオール)</u> ；犬の集団管理 (狂犬病)、・教育における人と動物の関係、・文学・文化人類学・動物考古学、・動物実験の倫理、 ・エイズ患者とペット、・ホスピスにおける動物の役割、</p> <p><u>1995 年 (ジュネーブ)</u> ；バイオフィギャー論 (人間は多様性環境において安らぎの生活ができる)、・年における動物の問題、・虐待の連鎖、・心臓発作の予後はペット飼育の方が高生存率、・家畜の管理者と家畜の管理、 ・子どもたちと動物、学校教育における動物、</p> <p><u>1998 年 (プラハ)</u> ；・障害者介護犬、・動物福祉、動物実験の未来、 ・コレクター (多頭飼育者) の問題、・女性が主体になった獣医師の役割、</p> <p><u>2001 年 (リオ)</u> ；子どもの社会性について犬がサポートする役割、・動物介在教育 ・高齢者施設における動物の人への健康の影響、学校における動物の飼育、</p> <p><u>2004 年 (グラスゴー)</u> ；子どもの免疫機能とペット飼育の効果、虐待児の心を開かせる犬の介在、ペット飼育による医療費の削減効果、 ・ヒトの膀胱癌を嗅覚で探知する犬、</p> <p><u>2007 年東京大会に報告が予測されるテーマ</u> ；・(東京宣言を予定)。 ・動物がヒトの心身に及ぼす影響、・ペットとの共生、・教育とペット、・コミュニティにおける人とペット、動物の福祉、</p> <p>講演：「人と動物の関係：現在のトレンド」講師；Dr. James Serpell (ペンシルバニア大学獣医学部教授) ペンシルバニア大学における介護犬・盲導犬等の育成システム構築についての取り組みを紹介。</p> <p>記者発表：約 70 名が出席、・IAHAIO 会長 (Dr. Dennis Turner) ,DR. Serpell、実行委員より説明の後、次のような質疑があった。 ・特にアジア的なものはないが、基調講演の中に韓国と中国の研究者にお願いしている。 ・研究発表の場である。IHAIIO は動物愛護団体でも野生動物保護団体でもなく、コンパニオンアニマルが中心で事前審査も行なうが、産業動物や野生動物関連を排除するものではない。 ・鳥インフルエンザについては、他に適切な学会が別にある。しかし、「野鳥を</p>

	<p>捕る猫と飼い主」のような問題についての一般論文応募があれば受け付ける。 ・西洋と東洋の動物観は違うが、西洋の考え方を押し付けるものではない。学び、情報交換の場にしたたい。</p>
2. 今後の研究開発分野として重要と思われる関連発表課題・話題提供名	<p>日本の畜産と家畜についての考え方は、IAHAIOのコンパニオンアニマル中心や西洋からの動物倫理観とはいささか異なるであろう。しかし、日本の犬・猫の関係者の考え方は我が国の畜産物消費者や実験動物反対論者に波及することは必至であろう。このような集まりに畜産・獣医関係者も積極的に参加して相互理解を深めておくことが大事と考えられる。</p>
3. その他の発表課題で関心のあったもの	<p>【AHAIO 2007 東京大会】一別添資料参照— 基調講演、ワークショップのほか、多種多様、広範囲からの学術発表が期待され、「東京宣言」も採択される見込み。 実行委員会 委員長；正田 陽一（CAIRC:コンパニオンアニマル リサーチ**） 副委員長；総括担当 太田 光明（HARS:Ⓢ日本動物病院福祉協会*） ：財務担当 細井戸 大成（JAHA） プログラム担当 森 祐司（HARS*:ヒトと動物の関係学会*）， ：渉外担当 山崎 恵子（JSDRA**:NPO 法人日本介助犬アカデミー） 事務担当委員:中西 悦子（JAHA） 委員:内山 昌（JAHA），大久保 隆行（JAHA），大野 和彦（(CAIRC:コンパニオンアニマル リサーチ**）、谷雅 富（Hill ‘s:日本ヒルズ・コルゲート株）、山口 千鶴子（JSDRA） 監事:石田 おさむ（HARS），水谷 渉（JAHA） * ; IAHAIO ナショナルメンバー、** ; IAHAIO アフィリエイトメンバー</p>
4. 今後研究開発課題採択に当たって参考とすべき事項等	<p>畜産・アニマルウェルフェア・野生動物の境界領域の課題について配慮する必要がある。</p>
5. 会議の所感	<p>世界的にも女性の獣医師への進出が多くなっているとのこと。このイベントの出席者を見渡しても7割以上は若い女性であった。われわれを取り巻く日本の状況は完全に変わったことを実感させられた。</p>
報告者	針生 程吉